

観自在

弘長寺寺報
第二十五号
平成二十四
年八月(年
二回発行)

本堂耐震大改修 立派に完成しました

— 本堂落慶・開闢七百五十回大遠忌法要

& 住職結制・徒弟法戦式に向け

さらなる寺檀一如の心を

弘長寺住職 森田裕光

昨年九月に着工した本堂耐震修改築工事が、六月末完成しました。

銅板屋根が出来上がった五月には、黄金の輝きを放ち、後光が射しているようでした。

特許を持つカナメの高い技術には、驚きを隠せない箇所が多数あります。

中島誠之助さんではありませんが、思わず「いい仕事をしてますね」と叫びたくなりました。

その技術の結晶を、工事監督委員(高木 大委員長)四名が、長期に亘り膨大な写真資料として記録されました。

その一部を八月七日の施食会にて、山門入り口にテントを張り、写真掲示したいと思っておりますのでご期待下さい。

慶祝法要(落慶・大遠忌・結制・法戦)は

十一月十八日(日)です

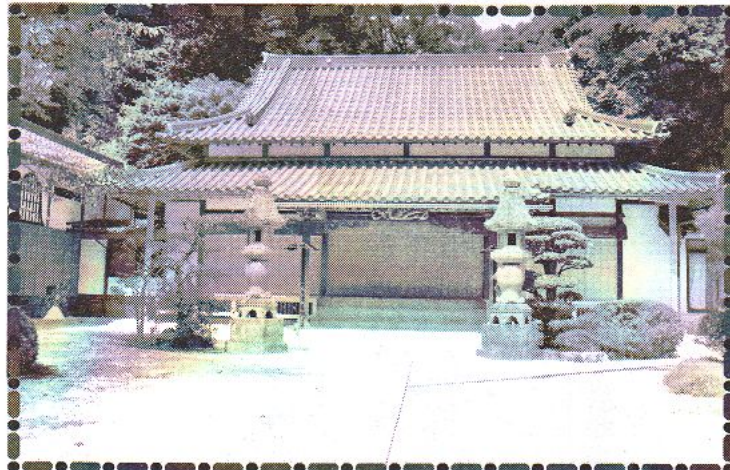
本堂大改修・方丈前東司改築・境内地整備等落慶法要、開闢七百五十回報恩大遠忌法要、住職江湖会(結制)、徒弟大裕首座法戦式という、慶祝大法要を十一月十八日(日)にとり行います。

四十名からの僧侶を招いての大法要です。

親子で結制と法戦式が出来る喜び、そしておそらく曹洞宗寺院では極めて稀な、開闢七百五十回大遠忌法要を厳修できる喜び、そしてそして二百数十年振りの本堂大改修落慶法要です。

後にも先にもこのような大法要はあり得ません。

当日は万障繰り合わせ、できるだけご参加されてお陰をお受け下さいますようお願い申し上げます。



完成した本堂



230年を支えた最後の雄姿

第23号表紙写真

本堂耐震修改築 の完成に感謝

弘長寺護持会
会長 武田民三

最近の気象は、常識ではとても図り知ることのできない異常なものとなっておりますが、護持会の皆さまには、ご健勝の御こと、拝察いたします。

き、工事をすゝめてまいりました。苦提寺本堂が、過日施工業者より引き渡しをされました。

これは、護持会の皆さまの真心からのご浄財によるものであり、誠にご同慶の極みでございます。

この苦提寺が将来に亘り、立派に継承されて行くことを心から願うと共に、道元



さて檀家総員で菩提寺の耐震修改築をとの願いを込めて、分割方式のもと、護持会の皆さまがご負担を頂

禅師さまのお言葉にあるごとく『切に思うことは必ず遂げるなり。切に思う心を起こすためには無常を思え』

との教えを、今こそ心に銘記したいと思えます。



ところで、私達の勤めは未だ〱道〱半ばであります。檀家のみんなで、心をひとつにし、最後まで献志の使命を果たしてまいりましょう。

修証義のなかに道元禅師

さまは『其の報謝は余外よげの法は中あたるべからず、唯当ただまさに

日々の行持その報謝の正道にちいちなるべし』と示されています。

私達が一生懸命になつて檀家の使命を果たすとき、我々が祖先に対する最も大なるご恩返しとなるはずであります。

厳しい現象娑婆世界にあつて、強い心で生きるとき、真の達成感を味わうことができると思ひます。

護持会の皆さまの愈々のご発展を祈念し、感謝のこゝとばとさせて頂きます。ありがとうございます。

合掌

お元気で

弘長寺護持会
副会長 坂本研次

暑い夏の到来です。

五月に植えられた稲がすくすく育ち、やがて穂が出揃います。

今年には九州地方をはじめ豪雨による災害が各地で発生いたしました。今のところ来待の方は無事です。



しかし何時、何が起こるか予断できません、健康にも災害にも常に用心いたしましょう。

お陰様で、お寺の改修工事は、天候的にもおおむね恵まれ、ほぼ順調に終えることが出来ました。

ひとえに、お檀家皆様のお力の賜物と感服いたしました。

前回建築当時のものを生

かし乍ら浜縁などの新しい木材を使用したことなど何の違和感もなく調和し、銅板葺き屋

根と共に荘厳な本堂が出来上がりました。

歴史の重みを現代に伝えていきます。

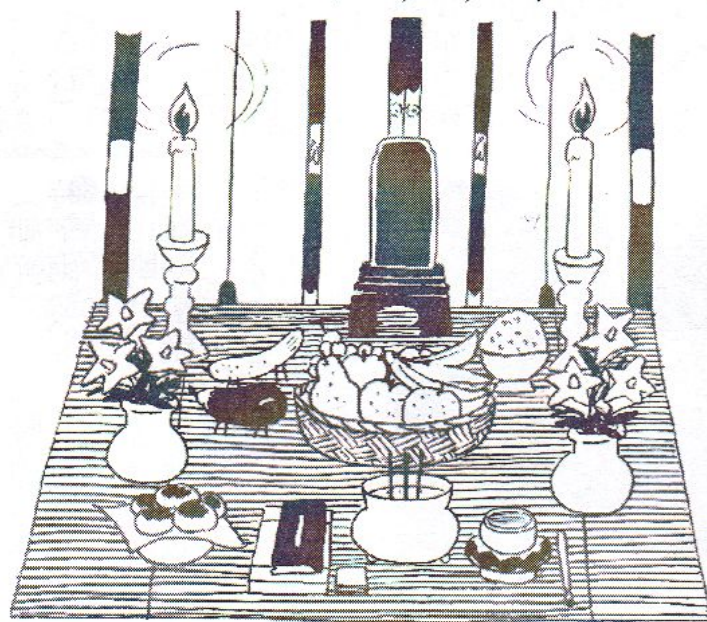
これからも暫くご負担をおかけすることになります。がよろしくお願いいたします。

やがてお盆です。

ご先祖に感謝し、供養することはもとよりですが、「山川草木」すべてが「人」に係わっています。

大自然の恵みの有り難さ

などにも思いを廻らしてはいかがでしょうか。



暑い日が続きます。

お身体に気をつけて稔りの秋、そして十一月の落慶法要を揃って元気で迎えましょう。

壇信徒本山(永平寺) 研究会に参加して

護持会副会長
内田松寿

本山研修会参加は私にとつて初めての体験となります。以前から参加したいと思っていたがやっと実現した。

五月十五日七時、来待駅前バスに乗り北陸に向かった。弘長寺からは十三名の参加者で最多数を占めた。

十五時三十分、雨の中、鬱蒼たる老杉に囲まれ荘厳な雰囲気、漂う永平寺に着した。

研修道場である鉄筋5階建ての吉祥閣(きちじょうかく)のロビーで、雲水(うんすい)(修行僧)から諸説明を聞き、2階の大講堂での輪絡子(わらくす)伝達式、開講式に臨む。

入浴は時間があまりなく十分で終える。

十七時三十分、2階応供台(おうぐだい)での薬石(やくせき)(夕食)となる。食事は大切な修行の一つです。

偈文を唱え感謝しながらいただく。少量だが品数は多く、バナナの一片や柏餅もあり満足した。

十八時四十分から坐禅を体験する。作法の説明後、背筋を伸ばし姿勢を正し静かに息を整えて坐る。心が自ずから洗われるようだ。二十分位だったろうか、時計等はずしていらるのでわからない。



大裕さんと面会

その後一時間弱の法話(山縣洋典老師)があり、永平寺の四季折々の姿を紹介した約三十分の映画を見

て本日の日程終了となった。二十一時開(かい)枕(らん)(消灯)。

男二十人程が4階の一部屋で寝ることになるが、上山(じょうざん)修行中の大裕さんに廊下で面会し、空部屋で一緒に写真を撮ったりして激励した。

十六日は早朝三時十分振鈴(しんれい)(起床)。布団(ふとん)作務(ざむ)、洗面身支度を整え、指定の場所に並ぶ。

暁天(ぎょうてん)中光(ちゅうこう)はい(福山諦法貫首代理)のため大(だい)だ(光明(こうみょう)蔵(ぞう)に向かう。

山中暗く階段も非常に多く、足下に注意しながら廻廊を進む。この建物は総檜造りの三百畳敷で全伽藍中最も豪華なものである。

拜謁後更に上り七堂(しちどう)伽藍(がらん)の一番奥に位置する法堂(はっとう)に進む。

永平寺の一日の中で最も感激するのがここでの朝課(ちようか)(朝のお勤め)

でしよう。まだ夜が明けやらぬなか、二〇〇名による荘厳な読経は魂を揺さぶられる。焼香を致し、一行の先祖供養をしていただいた。

光明蔵で記念写真を撮った後、七堂伽藍を巡り、説明を聴きながら拝観し吉祥閣に降りていった。

七時小食(しょうじき)(朝食)、八時閉校式、九時下山(あきん)。

深山幽谷の永平寺に参籠し、坐禅や法話、早朝の読経等を通して尊い修行体験を味得することができたように思います。合掌



梵鐘製作: 老子製作所を見学、製作一覽の中に弘長寺の名前もありました

お知らせ

お願い

●第三墓地前竹藪と弘法参道整備をしていただきました

●昨年引き続き、鏡地区・屋号奥・土江澄雄氏によりボランテイアで第三墓地前の竹藪と弘法参道の整備をしていただきました。汗まみれになりながらの作業にただ合掌でした。

●第三墓地裏西側山手急斜面の草刈りをしていただきまし

●第三墓地裏山急斜面の草刈りをしていただきまし
中垣地区飯塚哲久氏により、ボランテイアで危険箇所を数名の方にお世話になりました。

●施食会法話

●施食会法話は、八雲町平原の正禅寺住職、吉長裕教師をお招きします。演題は「和尚の間わず語り」

●生きてりや
色々あるもんだ
どうぞご期待ください。

●師には十一月慶祝祭典にも司会・解説をお願いしています。

●盆棚経は弘長寺灘からです

●棚経は昨年は弘長寺多井谷まで終了しました。

●今年弘長寺からスタ

●ト、浜東―浜西―池田―

●小松―中―垣―内ヶ峠―

●久戸―大森―横―見―大野廻ります。

●朝七時―夕六時迄、いつものように廻れるとお宅に参ります。

●時間指定はできません。

●葬儀が出来た場合は葬儀優先です。(十四日を除く)

●秋葉祭は読経供養のみ、カラオケ大会は休止します

●ご法事の際の注意事項

●ご法事の際、仏壇をそのまま祭壇代わりにして、床の間の祭壇飾りを省略される方がおいででございますが、年回が当たっているその仏様の特別供養ですから、必ず

●床の間に祭壇を作り、年回のお位牌を、そこに飾り下さい。

●ご法事の際、床の間の掛け軸は三尊仏をお寺で準備いたしますが、ご自宅をお持ちの場合はどうぞそれをお掛け下さい。

●仏様の図・文字等仏様であれば何でも結構です。

●ご法事のお墓参りの際には、風防ライターがある

●と便利ですよ。(そんな

●に高価ではありません)

●強風で線香が中々点かず、

●時間のロスになることが

●多いですので、是非ご用意下さい。

●ご法事の際は、塔婆料をお忘れなく(再掲載)

●ご法事の際、住職がよく忘れるのが塔婆料をいただくことです。

●お塔婆は、昔は施主家のほうで準備したものです。

●現在では便宜的にお寺が仏具屋から取り寄せています。

●大抵アルコールが入ってしまふと忘れがちになります

●ので、出来れば最初にお寺に迎えに来られた時に塔婆代だけは先にお渡しいただくと喜

●びます。

●一本千円です。院号や庵号の方は千五百円です。

●特別寄付について
●特別寄付は、住職が宗教法人代表としてお願いいたしております。

●お電話をいただければ住職が領収証を持って参上致します。

●お寺へお持ち頂ける方は、必ず電話をかけてからおいで下さい。

●特別寄付の受付は九月末日まででございます。

●(十月以降は本堂単牌張り出し作業の為)

●どうかよろしくお願い申し上げます。

●合掌

●慶祝祭典について
●法要後、祝宴を準備致します。

●法要並びに祝宴については改めてご案内を申し上げます。

●寺報「観自在」に対し、賛助金を頂戴しました。

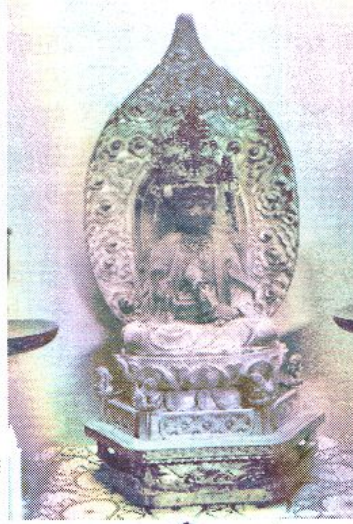
●金一封 安来市 万松院様

お知らせ

お願い

●弘長寺本尊様
修復完了しました

四月二十一日、名古屋へ
修理に出かけになってい
ました弘長寺御本尊：聖観
世音菩薩様が無事修復を了
えてお帰りになりました。



武田護持会長と共にお
迎えたしました。お
完全に新品の仏像にお
なりになりました。



内またもや胎
出かまたりま
した。まいりま



作製年が判明、慶長五年
八月です。関ヶ原の戦い
の二ヶ月前ということになり
ます。

鎌倉時代の仏像ではない
か、と期待はなかつたよう
です。そうではなかつたよう
で、文字も不思議なことが書
かれています。現在古文
書解読の専門家である松本
美和子先生にお願いをして
解読中でございます。

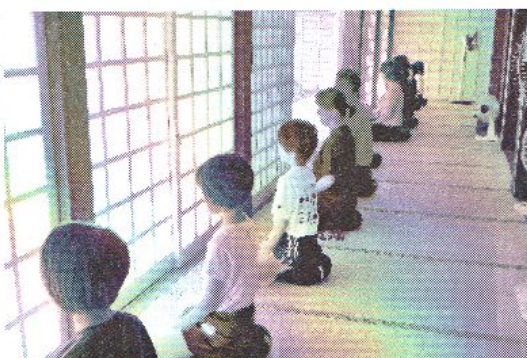
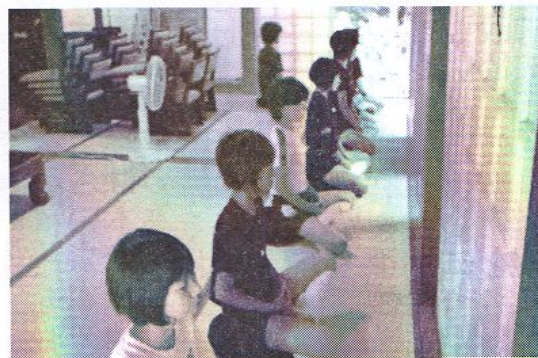
新たなことが判明したら
お知らせいたします。

●宍道スポ少
女子バレー部坐禅会

七月二十一日より、夏休
み期間中毎週土曜日、夏休
み少バレー部（土江健雄
監督）が坐禅会を行います。



す。
初回は小学生十八名、大
人五名の参加、住職のお
話と十分間の坐禅を行い
ました。緊張した面持ち
で皆さん、



を悟ろうとして、悟りを追いかけることを「迷い」というのだ。追いかけるのではなく、悟りのほうからやってくるのを待つのだ。」

「これぞまさしく「法灯明、無自灯明」の世界ではありませぬか。」

日経おとなのOF
「ようこそ禅のせい
か「いへ」に載った白
取春彦氏のうっとり
するようない現成公案
（一部）の訳文をご
紹介します。」

「自分から初めては
ならない。自分を中
心に判断してはなら
ない。」

目的のために自分をどこかへ持つていき、そして自分が悟るために何かをやったとして、結局のところ、それは悟りへの道を往くことではな
く、依然と迷い続ける自分を
見出すだけに終わる。

なぜならば、何をするに
しても、その先っぽに自分を置
いておられるからだ。つまると
その自分とは、つまるとこ
ろ、欲得まみれの獣にすぎな
い。

何か特別な方法によつて、
突如として変身できると期

待しているような卑しい自
分にすぎない。



だから、とにかく自分の眼
で見、自分の耳で聞き、自分
の頭で考え、自分で判断する、
といったことをすべてきつぱ
りとすてよ。

何をするにしても、そこに
自分がいる限り何も見えてこ
ないし、聞こえてくることも
ない。

というのも、自分で見聞し
ていると思っているものは実
は自己自身だからだ。
自分しか見ていない者にいっ
たい何が見えよう。

何が聞こえよう。
何がわかるう。

自分とは何か。

ひつきょう欲の塊ではない
か。あれが欲しいこれが欲しい
と終始叫んでいる輩ではない
か。

その欲のもろもろがお前の
眼、耳、考えを濁らせ、何に
ついても自分との距離、自分
との関わり、そして損得や好
みや感情でしか判断させない
ようにしていることがまだわ
からないのか。

とにかく、あれこれと考え
るな。悟りについても何も思
うな。思いのいっさいを無視せよ。

そうしたあげく、ただそこ
に在れ。命のために呼吸をして
だけの存在になれ。暑くとも
寒くとも寒くとも、そのこ
とに関わるな。

ただ、存在しろ。

そのときに、おまえは驚く
だろう。

草むらで鳴いている虫が自
分だと感じるだろう。

煌々と輝く月が自分だと感
じるだろう。

飛び立った鴨とおまえも飛び
立つだろう。

自分の輪郭がなくなり、この
世のいっさいのものが自分で
あり、いっさいのいっさいの
きりと溶け合っていることをは
つ

自分という人を捨てたから

だ。そのときに、すべてが完全
であると知られる。すべてが一
つだとして知られる。原初から
こうであつたとして知られる。

これが悟りの状態である。」

名文による「法灯明、無自
灯明」の世界に入り込めまし
たでしょうか。



「自灯明・法灯明」についで
は、大評価され、高僧のあり
すが、完成された「迷いの種」
かみ、これに思いを至らせる
べきだと思ふ。

島根県第二宗務所

第二教区護持会研修旅行のご案内

本年も、慶祝祭典のため、弘長寺独自の研修はお休みです。

第二教区護持会の研修旅行が企画されましたので、是非とも参加したいと思います。

ご希望の方は下記のとおり、8月28日迄に菩提寺住職へ。

尾道天寧寺参拝と呉の旅

皆様には、ご健勝にてお越しの事と拝察申し上げます。
この度、第二教区護持会では【尾道天寧寺参拝と呉の旅】
を計画致しました。曹洞宗の名利寺院【天寧寺】を参拝し、
【大和ミュージアム】の見学を予定しております。
是非お誘い合わせてご参加下さいますようご案内申し上げます。



【天寧寺：本堂】

合掌

- ◎期 日 平成24年9月12日(水) 〈日帰り〉
- ◎会 費 9,500円(天寧寺献香料、昼食代含みます)
- ◎主 催 第二教区護持会 事務局:蓮光寺 ☎:0852-62-2153
- ◎定員・申込 35名(平成24年8月28日までにお申し込み下さい)
- ◎行 程 (全行程:貸切バス利用)

	教 区 内====宍道IC====<山陰道>====掛合吉田IC====<R54・184>==== 7:00~7:40頃発
9月12日	====天寧寺参拝【五百羅漢・三重塔:曹洞宗寺院】====尾 道==== 【参拝・説明】 【曹洞宗中国管区教化センター】 (昼食)
(水)	====呉市海事歴史科学館【大和ミュージアム】====呉IC====三次IC====
	====宍道IC====教 区 内 19:00~19:40頃着

◎ ご注意・ご案内

- 1) 参拝寺院・道路状況等の都合によりコース等多少変更になる場合があります。
- 2) 集合場所等の詳細連絡は、出発の7日前までにご案内致します。

<旅行取扱> (株)ピーエス観光 米子営業所 【観光庁長官登録旅行業第347号】
鳥取県米子市角盤町2-3 共建ビル2階 ☎0859-33-6456代 Fax0859-22-1796

参加申込書

私は、上記研修旅行に参加申し込みいたします。

平成24年 月 日

氏 名 _____ 住 所 _____

電話番号 _____ (_____) 寺 所 属 _____

☆葬儀の達人になりましょう③は都合により次号に延載です